第４学年１組　特別の教科　道徳学習指導案

令和８年１１月２０日（金）　第５校時　４年１組教室　指導者　天野　幹康

１　主題名　　正直はだれのため（A正直、誠実）

（教材名：新次のしょうぎ　出典：生きる力４【日本文教出版】）

２　目　標

嘘やごまかしは、相手だけでなく「本当は正直でいたい自分」の心もだましてしまうことに気付き、嘘つきの心やごまかそうとする心に負けず、自分の正直な心を大切に行動しようとする態度を育てる。

３　授業計画

【ねらいとする道徳的価値について】

「誠実・正直」とは、単に嘘やごまかしをしないことではなく、自分の過ちや弱さを素直に認め、自分の正直な心を大切に生きようとすることである。人は失敗を隠したり、その場を取り繕ったりしたくなることがあるが、そのような行動は相手の信頼を損なうだけでなく、本当は正直でありたいと願う自分自身の心にも偽ることになり、後悔や自責の念を生む。一方、自分の過ちを受け止め、嘘つきの心やごまかそうとする心に負けず自分の正直な心を大切にすることは、自分らしく明るく生活することや、自分への誇りや自信につながる。自分の心の中にある「正直でいたい気持ち」と「ごまかしたい気持ち」との葛藤に気付き、自分の心に正直に行動しようとする態度を育てていきたい。

【学習前の児童の姿】

本学級の児童たちは、男女の仲がよく、日ごろから互いに関わり合いながら学校生活を送っている。また、「ありがとう」や「ごめんなさい」を素直に伝えられる児童も多く、温かい人間関係が築かれている。一方で、遊びの中では、自分が勝ちたいという気持ちからルールを破ってしまったり、忘れ物をしても正直に申し出ず黙ってしまったりする姿が見られる。また、人の物を隠しても自分がやったことを認めないなど、自分にとって都合が悪い場面では事実をごまかそうとすることもある。本教材を通して、嘘やごまかしは相手だけでなく、本当は正直でいたい自分自身の心にも影響を与えることに気付き、嘘つきの心やごまかそうとする心に負けず、自分の正直な心を大切にして行動しようとする思いを育てたい。

〈教材のこんな魅力〉【１時間完了】

・本教材では、「勝ちたい気持ち」と「正直でいたい気持ち」がぶつかり、「いけないと分かっているけど、やってしまいそうになる」新次の心の揺れについて考えることで、嘘やごまかしは、自分自身の心の中をイメージして考えることができる。
・「傘を持つ手に涙がこぼれた」新次の心の内側を考えることで、恥ずかしさや後悔、自責の念、おじさんへの申し訳なさといった、いろいろな感情を感じることができる。

〈こんな手だてで〉

・「勝ちたい気持ち」と「正直でいたい気持ち」を対比した板書を書くことで、ずるいことをしてしまった心の中には、「正直でいたい気持ち」をもった自分もいることを感じ取ることができるようにする。
・「傘を持つ手に涙がこぼれた」場面では、児童の意見を「自分に対して」、「おじさんに対して」、「行動そのもの」に分けて板書することで、複雑な新次の暗い感情を感じ取ることができるようにする。

【学習後の児童に期待する姿】

・正直でいることは、相手だけでなく、自分の中の嘘つきの心に負けず、正直な心も大切にすることにつながっていることに気付き、嘘をついたりごまかしたりせず、自分の正直な心を大切に行動しようとする意欲を高めている。

４　本時の指導

（１）指導の構想

導入では、児童がこれまでに嘘やごまかしをした経験を想起し、そのときの気持ちを交流する。事前アンケートを基に、多様な感じ方を共有することで、自分事として教材に向き合えるようにする。その後、めあてを確認し、「正直であることはどうして大切なのだろう」という問いに対する現時点での考えをもつことができるようにする。

展開では、まずは、「ずるしちゃえ」と思った新次の心に着目するようにする。「勝ちたい」「誰も見ていないから大丈夫」といった思いと、「正直でいたい」という思いを対比しながら整理することで、誰の心にも弱い心と正直でいたい心が存在することに気付けるようにする。

中心発問では、勝ったにもかかわらず笑えなかった理由や、傘を持つ手に涙がこぼれた場面について話し合うことで新次が苦しんでいたのは負けたことではなく、「正直でいたい自分に背いてしまった自分自身の情けなさ」であることに迫る。そして、嘘やごまかしは相手を傷つけたり、信用を失ったりするだけでなく、本当は正直でいたい自分自身の心も苦しめてしまうことに気付くことができるようにする。

その後、導入で設定した「正直であることはどうして大切なのだろう」という問いに立ち返り、「ねらい」に迫りたい。正直であることは、相手のためだけではなく、自分自身を大切にし、自分らしく明るく生活することにもつながることを確認し、自分の心の中の正直な心を大切に行動しようとする思いを育てていきたい。

（２）準　備　　（教師）挿絵

（3）学習過程

学習活動（時間）	予想される児童の反応			※教師の支援
1　嘘やごまかしをしてしまったときの気持ちを共有する。（3）	本当のことを言わなかったり、少しごまかしたりしたとき、どんな気持ちになりましたか			
	・あまり気にならなかった。	・少しもやもやした。	・これでいいのかなと思った。	※嘘やごまかしをしたとき、さまざまなネガティブな気持ちがあることに気付けるよう、事前にアンケートを取り、共有する。
2　めあてを確認する。（3）	めあて　正直であることはどうして大切なのだろう			
	・正直でないと怒られる。	・嘘をつくと自分がもやもやするから。	・正直でないと後悔するから。	
3　教材文を読む。（4）	将棋の駒を動かそうと思いついたとき、心の中はどう思っていたのかな			
4　新次の中の弱い心と強い心について考える。（5）	・「ずるしちゃえ」と思っている。	・「誰も見ていないから大丈夫」と思っている。	・「絶対に勝ちたい」と思っている。	※新次の弱い心と強い心を対比した板書にすることで、ずるいことをしてしまった心の中には、「正直でいたい気持ち」をもった自分もいることを感じ取ることができるようにする。
	・「ばれたら怖い」と思っている。	・「申し訳ないな」と思っている。	・「正直でいたい」と思っている。	
5　弱い心を選んだことで、新次自身の心が暗くなる様子を捉える。（5）	勝ったはずなのに、どうして新次は心から笑えなかったんだろう			
	・ばれているかもしれないと怖かったから。	・ずるをして勝ってもうれしくなかったから。	・ついずるをしてしまった自分のことが嫌だったから。	※挿絵の表情の変化を示すことで、大きく新次の気持ちも変化していることを感じ取れるようにする。
6　嘘やごまかしは、他者だけでなく、本当は正直でいたい自分をごまかしていることを考える。（20）	傘を持つ手に涙がこぼれたのは、どんな思いがこみ上げてきたからかな			
	・もやもやした気持ちがあったと思う。	・おじさんに申し訳ないことをしてしまって、後悔の思い。	・本当はずるをしたかったわけではないという思い。	※児童の意見を「自分に対して」、「おじさんに対して」に分けて板書することで、さまざまな理由で後悔していることを感じ取れるようにする。
	・ずるをしない自分。 ・悪いことをしない自分。	・ずるをしないで勝とうと頑張る自分。 ・後で後悔しない自分。	・自分の心に正直な自分。 ・自分を大切にできる自分。	※【キーワードとなる児童の発言】「本当はずるいことをしたくない」 【キーワードに対する切り返しの発問】「新次は、本当はどんな自分でいたかったのかな？」
	正直であることはどうして大切なのだろう			
	・もやもやがすっきりする。	・相手の気持ちを大切にできるところだと思う。	・相手のことだけでなく、嘘やごまかしをしたくない自分を大切にできる。	※めあてに戻ることで、この一時間で「正直であることはどうして大切なのか」に対する考えが、広がったり深まったりしたことを感じ取れるようにする。
7　振り返り（5）	今日の授業を通して、新たに学んだことを振り返りましょう			
	・もやもやしたくないから、正直に生きていきたい。	・相手を傷つけないために、正直に生きていきたい。	・嘘やずるいことをすると、相手だけでなく、自分も裏切ってしまうから正直に生きていきたい。	※授業で話し合ったことや板書を参考に一番心に残ったことを振り返るよう確認する。

（4）評　価

・正直であることは相手のためだけでなく、自分自身の正直な心を大切にすることにつながることなどについて考え、自分の心に正直に行動していこうとする考えを表現しようとしているか。　（発言・ワークシート）